

## 論文内容の要旨

報告番号	空欄	氏名	橋本 顕子
(題名を記載) Frontal lobe function in elderly patients with Alzheimer's disease and caregiver burden			
(和 訳) アルツハイマー型認知症患者における前頭葉機能と介護負担の関係			

### 論文内容の要旨

(和訳)

#### 背景

アルツハイマー型認知症(Alzheimer disease:AD)患者の問題行動と介護負担との関連性について、十分に明らかにされたとはいえない。そこで、AD患者へのより有効なケアのため、AD患者の問題行動や介護負担に関連した要因間の相関関係を調べることは、意義があると考えた。本研究では、AD患者の前頭葉機能に着目し、AD患者の前頭葉機能における特定機能の低下が、介護負担に及ぼす影響について検討した。

#### 方法

研究対象者は、大学附属病院認知症疾患医療センターの検査外来を受診した30組のAD患者とその介護者とした。AD患者の認知機能や問題行動、介護負担等を測定する質問紙として、前頭葉機能検査(Frontal Assessment Battery:FAB)、認知機能検査(Mini-Mental State Examination:MMSE)、行動・心理症状(Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia:BPSD)測定検査(Neuropsychiatric Inventory:NPI)、老年期うつ病評価尺度(Geriatric Depression Scale:GDS)、日常生活機能(Physical Self-Maintenance Scale:PSMS)、Zarit介護負担尺度日本語版(Zarit Caregiver Burden Interview:ZBI)を使用した。介護負担(ZBI)と、前頭葉機能(FAB)や認知機能(MMSE)、行動・心理症状(NPI)、うつ症状(GDS)、日常生活機能(PSMS)との関連について、Pearsonの積率相関分析を行った。さらに、介護負担と前頭葉機能との因果関係を検証するため、介護負担との関連において重要と分かった特徴について、また、前頭葉機能(FAB)の5つの下位項目について、階層的重回帰分析を行った。最後に、介護負担(ZBI)の3つの下位項目(心理社会的性・依存・罪悪感)との関連について相関分析を行った。

#### 結果

AD患者の前頭葉機能(FAB)の低下や日常生活機能(PSMS)の低下、行動・心理症状(NPI)が、介護負担に有意な相関を示していた。さらに、日常生活機能(PSMS)や行動・心理症状(NPI)の他要因を統制した後も、AD患者の前頭葉機能低下が介護負担に関与することが示唆された。また、介護負担の3要因との相関分析の結果から、AD患者の日常生活機能(PSMS)と行動・心理症状(NPI)は介護者の心理社会的要因に関連していた。AD患者の前頭葉機能(FAB)、特に葛藤指示への困難は、介護者の依存に関連を有していた。

#### 結論

今後、AD患者のいる家族の介護負担を軽減するために、先行研究から明らかにされた心理社会的負担のみならず、前頭葉機能不全によるAD患者の過度の依存に関してもケア介入を講じていくことが期待されると示唆された。